



【第333号 紙面案内】

第1面…巻頭言	第7面…第88回全国研究大会 大会開催記
第2面…理事会・常任理事会	第10面…マネジメント教育研究部会 組織委員会セッション
第3面…第89回全国研究大会 自由論題報告募集	第11面…部会報告
第4面…部会開催案内	第12面…会員書籍
第6面…山城賞および山城賞奨励賞募集の ご案内	第14面…会長挨拶：学会のDX化推進と 会報に向けた想い

国際交流活動を振り返って

国際委員長 文 載皓（常葉大学）

本学会が創立してからすでに40年以上が経過した。経営学分野の学会として本学会の創立者である山城彰先生の「実・学一体」の精神の下、社会から要請された課題に対して学会としての使命や役目を果たしていると自負している。

グローバル化、情報化、新型コロナウイルスという経営環境の急激な変化とともに、実に多方面で生じている様々な課題に対し、学会という公信力のある機関として世に発信すべきスタンスや見解を明確にしなければならない。しかし、このような状況の中で本学会における国際交流活動は必ずしも十分といえるほどの実績があるとはいえない。今までの国際交流の活動は、韓国経営教育学会との定期的な学術交流が主軸となっていることが現状である。要するに、両学会の全国大会に定期的に報告者を派遣するような形で、日韓という二国間の交流に限定されており、昨年度ようやく日中韓による3カ国間の交流ができた。朝日大学主催の全国研究大会ではコロナ禍にも関わらず、サムスン電子の李彰洙氏（サムスン電子株式会社 メモリー事業部チーム長 副社長）を招聘し、日中韓のSDGsについての国際比較を行う貴重な時間となった。実際に、過去においては、当時の国際委員長であった吉田優治氏の個人的なご尽力もあり、アメリカ経営学会経営教育部会の重鎮を招き、基調講演をした時の記憶はまだ脳裏に鮮明に残っている。このように、本学会での国際交流活動は今後発展する可能性が残っていると見えよう。

今後より活発な国際交流活動に向け必要な方策として以下の3点をご提案申し上げたい。

第1に、学会内に若手の研究者のための定期的な発表や交流の場を提供することである。これについては従来のもとは異なる、より自由かつ高次元での工夫が必要である。

第2に、国際交流活動のために外部資金をより積極的に利用することである。実際に、今まで外国の優れた研究者を招聘して基調講演をしてもらう際に最も困難な障壁として立ち上がったのが招聘費用であった。必ず全国大会という形式に捕らわれないシンポジウムの形態で特別なイベントでもいいであろう。

第3に、学部生を対象にした国際的な発表大会を開くことを提案したい。これについては、学部生として実現可能なテーマ（例えば、大学生としてSDGs活動の事例など）を決め、学会はその発表と議論の場を提供することである。

以上が長年の国際交流活動に従事しながら実感し、実現可能であろうと思わる方策について提案したものである。

◇◇日本マネジメント学会 理事会・常任理事会◇◇

1. 日 時：2023(令和5)年8月19日(土) 18:00～18:40
2. 会 場：(オンライン)
3. 議 題：
 - (1) 第88回全国研究大会プログラムについて
 - ・村山実行委員長、小野瀬実行副委員長より、2023年10月6日から8日にかけて駒澤大学で開かれる第88回大会に関して、統一論題等プログラムの説明がなされ、承認された。
 - (2) 第89回全国研究大会について
 - ・2024年6月に開催予定の第89回全国研究大会について、明治大学で開催予定であることが説明され、承認された。
 - (3) 理事の追加選任について
 - ・学会長より理事の追加について説明がなされ、承認された。
 - (4) マネジメント教育研究部会の部会長の選任について
 - ・学会長よりマネジメント教育研究部会の部会長の選任について説明がなされ承認された。
 - (5) 理事選挙の方法について
 - ・第89回全国研究大会において、理事選挙が行われることが説明され、会員総会による選挙（選挙総会）が提案され、承認された。
 - (6) 法人会員の入会承認について
 - ・学会長、および推薦者より法人会員の入会について説明がなされ、承認された。
 - (7) その他
 - ・学会長より第90回全国研究大会については、地方で開催を予定していることの説明がなされた。
 - ・第89回全国研究大会について、他の学会とバッティングしないよう注意が必要ではないかと提案された。
 - ・会長の任期について、現在1期までとなっているが、今後を踏まえ変更の検討の必要性について提案された。学会長より会則に関わることのため、執行部で一度検討することが説明された。
 - ・文国際委員長より、2023年10月の第88回全国研究大会に韓国経営教育学会の幹部が来日予定であることが報告された。また、来年度は、全国研究大会において国際セッションとして設けてはどうか、提案がなされた。国際委員会の方で引き続き検討することが説明された。

以上

◇◇第89回全国研究大会・自由論題報告募集◇◇

2024(令和6)年6月7日から9日(予定)、明治大学(駿河台キャンパス)において開催される第89回全国研究大会の自由論題報告を募集します。下記要領に従ってご応募下さい。

1. 応募資格

本学会の会員。但し、第88回全国研究大会・自由論題として報告された方の応募はご遠慮下さい。

2. テーマ

本学会の目的に沿う以下のもの。

- ・経営体の諸活動に関する実践的経営の研究
- ・日本的経営および国際的経営の研究
- ・経営者・管理者の実践的能力を育成するための経営教育の研究

3. 応募書類

応募には応募用紙の記入が必要です。日本マネジメント学会ウェブサイトより応募フォーマットをダウンロードし、注意事項を読んで原稿を作成し、下記締め切り期日必着にて電子メールでお送りください。

4. 締切

2024(令和6)年1月31日(水) 必着

5. 応募先・問い合わせ先

- ・応募先：日本マネジメント学会事務局

jimukyoku@nippon-academy-of-management.com

- ・問い合わせ先：組織委員長 井上 善海

soshiki@nippon-academy-of-management.com

開催日程や開催形式につきまして決まり次第、学会の会報やホームページ等にてお知らせいたします。

◇◇関東部会からのお知らせ◇◇

関東部会長 大野 和巳 (文京学院大学)

第1回関東部会(於: 文京学院大学本後キャンパス)は、4年ぶりの対面開催とあって多数の会員の皆様にご参加いただき、大変活発な議論が展開されました。

第2回部会は、12月2日(土)、明治大学駿河台キャンパスのリバティータワーにて、対面開催いたします。忘年会も兼ねまして懇親会も予定しております。年の瀬の多忙な時期とはなりますが、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

なお詳細につきましては、メールマガジン及び学会サイトにてお知らせしておりますのでご覧ください。

報告者の募集は、随時、行なっております。第3回は来年3月2日(土)開催の予定です。会員の皆様におかれましては、奮って応募くださいますようお願い申し上げます。関東部会長・大野和巳(kohno@bgu.ac.jp)、関東部会副会長・奥山雅之(mokuoku@meiji.ac.jp)、関東部会幹事・平屋伸洋(hiraya@meiji.ac.jp)迄、ご連絡ください。

◇◇中部部会からのお知らせ◇◇

中部部会 会長 村橋 剛史

日本マネジメント学会中部部会では、経営行動研究学会、経営哲学学会と3学会合同で、2023年12月17日(日)午後「じゅうろくプラザ(JR岐阜駅すぐ)」で第65回研究例会を行います。研究例会は前回同様、対面、オンラインのハイブリッド方式で行います。本稿作成段階では報告者がまだ決まっていますが、みなさまのご参加をお待ちしております。お問い合わせは、中部部会会長・村橋 剛史(TEL: 058-329-1359 E-mail: Murahasi@alice.asahi-u.ac.jp)あるいは幹事の水野清文(E-mail: kiyofumi-070221@alto.ocn.ne.jp)までお願いします。会報発行時にはすでに発表予定者は決まっている見込みですが、時間的余裕があれば、追加申し込みを受け付けしますので、希望者は上記連絡先までご連絡ください。

◇◇経営実践コンサルティング部会開催のお知らせ◇◇

経営実践コンサルティング部会長 柴田 仁夫 (岐阜大学)

以下の要領で、経営実践コンサルティング部会を開催します。

テ ー マ：国内農業及び食品製造業・食品販売業の現状－未来に対し何ができるか

概 要：日本の少子高齢化は加速し一次産業の担い手の平均年齢は令和4年で68.4歳と高齢化が進み、消費者となる総人口も毎年50万人強の減少が進んでいる。こうした中、日本における様々な食料問題は年初に話題に上った牛乳廃棄問題、春先の卵高騰問題、秋になっての学校給食事業者の廃業問題など、海外の様々な要因を含んでじわじわと広がっているように感じられる。今回の部会では生活に密着し過ぎて実態をあまり知ることのない国内農業及び食品製造業・食品販売業の現状について専門家からご講演いただき、これらの業界の未来について、経営コンサルタントの視点から議論する。

開 催 日：2023(令和5)年12月9日(土) 13:00-15:00

場 所：オンライン (ZOOMによる)

料 金：無料

申込〆切：2023年12月6日(水)

申込方法：shibata.kimio.y5@f.gifu-u.ac.jp まで、メールにてお申し込みください。お申込み頂いた方には、12月7日にZOOMのURLをお送りさせていただきます。

登 壇 者：三海泰良 氏 (JAグループ診断士会会長／中小企業診断士)

横山剛史 氏 (明治飼糧株式会社 監査部部長／中小企業診断士)

<当日のプログラム>

13:00-13:15 開会挨拶 (部会長)、解題 (10分)

13:15-13:40 第一報告 (報告25分)

「国内農業が置かれている現状」(三海泰良 氏)

13:40-14:05 第二報告 (報告25分)

「国内酪農乳業の現状」(横山剛史 氏)

14:05-14:15 休憩

14:15-14:45 鼎談 (三海氏、横山氏、部会長) (30分)

14:45-14:55 質疑応答 (10分)

14:55-15:00 閉会挨拶 (部会長)

以上

◇◇山城賞および山城賞奨励賞募集のご案内◇◇

2023(令和5)年度山城賞(本賞)と山城賞奨励賞を以下の要領で募集いたします。奮ってご応募ください。自薦または他薦をお待ちしております。

1. 選考対象

対象作品は、2022(令和4)年10月1日～2023(令和5)年9月30日までの1年間に発行されたもの。ただし、対象者は本学会会員であり、応募作品は本学会の研究活動に関連する領域のもの(後記「5. 山城賞(本賞)・山城賞奨励賞の応募基準」に従う)とし、同一単行本および同一論文の連続応募は認められない。

2. 山城賞(本賞)の応募対象

単行本(日本語または英語に限る。共著も可であるが、2名までとし各人100頁以上の執筆分担が明確なものとする)

3. 山城賞奨励賞の応募資格

(1) 対象作品: 学術研究雑誌である日本マネジメント学会誌『経営教育研究』第25巻第1号・2号およびこれに準ずる本学会の刊行物に掲載された論文(日本語または英語に限る。共著不可)

(2) 応募者の年齢: 35歳以下(後記「6. 応募締切り」時点)

4. 応募方法

自薦、他薦いずれも可。

(1) 自薦の場合: 当該作品5部および①内容要旨(A4用紙で1,200字程度)②履歴書③振込口座明記の用紙(下記の注参照)を提出。

(注) 山城賞(本賞)の場合は提出された作品(単行本)5部のうち2部が応募者の負担軽減のため学会買取りとなる。代金振込先を明記した用紙(書式は任意)を同封すること。作品および提出書類は返却しない。

(2) 他薦の場合: 自薦の提出書類に加えて、他薦の推薦書(A4用紙で以下の6項目を記載したもの)を提出。

①推薦者氏名

②推薦者所属機関

③推薦者の連絡先

④著者名および書名(あるいは論文名)

⑤出版社(発行所)名あるいは掲載された学会誌(等)名(Vol., No. 明示)、および出版年月

⑥推薦理由

5. 山城賞（本賞）・山城賞奨励賞の応募基準

日本マネジメント学会会員の著書・論文で経営体の諸活動に関する実践的研究の発展に資するもの（下記①～④参照）であること。

- ①経営原理の歴史的展開または体系化、さらに経営環境の変化に伴う新しい経営原理の提起に関するもの。
- ②（あるいは）経営原理の実践に関する技法の体系化、技法の新展開に関するもの（経営原理に基づいて開発された技法であること、開発された技法が新しい経営原理を導くものであること）。
- ③（上記①あるいは②については）研究領域は事業体を問わない（いわゆる非営利事業体の全てをも含む）。また地域的特性（国際化、各国別特性－日本型経営など、各国別比較など）や経営体の機能別（財務、人事・労務、製造、マーケティングなど）、階層別（経営リーダーシップと管理リーダーシップ）分野を問わない。
- ④先行研究レビュー、引用出典の明示、参考文献など学術文献としての形式要件を充足するもの。

6. 応募締切り

締切り：2024（令和6）年1月5日（金）必着

応募先：〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-5 九段会館テラス2F

（株）山城経営研究所内 日本マネジメント学会事務局

◇◇第88回全国研究大会 大会開催記◇◇

大会実行委員長 村山 元理（駒澤大学）

日本マネジメント学会第88回全国研究大会は、「マネジメントにおけるパーパスと経営理念」を統一論題として、2023（令和5）年10月6日（金）から8日（日）にかけて駒澤大学にて開催された。開催期間中の参加者は約100名であった。

大会1日目となる10月6日の企業見学では、統一論題にふさわしい場所となる御茶ノ水の企業家ミュージアムに訪問した。このミュージアムには、日本の経済成長をリードした企業家の思想のパネルが、企業家の愛用の品や当時の商品などとともに展示されている。ご案内いただいたのは、同ミュージアムの代表であり、当学会の会員でもある市川覚峯氏であった。冒頭、市川氏からご説明があった。日本を支えた企業



市川覚峯代表（前列右から3人目）と企業家ミュージアム見学の参加者

家たちの思想が失われてきた。そこで広く思想を引き継がせるために一般に知らせるミュージアムを開設したとのことである。全員でミュージアムの展示を見学し、思想や理念に触れたことは、著作や論文で触れる企業家とは異なりリアルさを感じさせられた。その後、隣接する昌平坂学問所跡、湯島聖堂、さらには神田明神をまわり、学問の要所であったことを感じた。余談ながら、駒澤大学の前身の学林も江戸駿河台の吉祥寺境内に所在したので、縁を感じさせられた。

2日目(土)統一論題セッション1では、サブテーマ「マネジメント研究におけるパーパスとはなにか」のもと野林晴彦先生(金沢星稜大学)が国内のパーパス研究の動向を分類・整理され、経営理念研究という視座を加えた。村山は海外でのパーパス研究を整理し、事例やビジネス倫理学、MSR研究と関連づけて解説した。パネルディスカッションでは、宇田理先生(青山学院大学)の司会のもと、井上真由美先生(高崎経済大学)が代表質問者となり、基本的理解を深める質問の応答によって、議論が深まった。



統一論題セッション1 (10月7日登壇者)

同日午後の統一論題セッション2では、サブテーマ「実践におけるパーパスと経営理念」のもと、市川覚峯先生(一般社団法人日本経営道協会)が豊富なコンサルティング指導者の立場から経営理念策定の実務と課題を披露された。横山剛史氏(明治飼糧株式会社)は市川先生の指導のもと同社における経営理念策定の経緯と現状について詳しく報告された。犬田剛先生(東京農業大学)は近刊の博士論文をもとに農業法人における経営理念とパーパスについて経営理念の機能と生産品目への着目から分析された。



統一論題セッション2 (10月7日登壇者)

パネルディスカッションでは、粟屋仁美先生(文京学院大学)の司会のもと、當間政義先生(和光大学)が代表質問者となり、ゲマインシャフトの紐帯としてパーパスが機能していることを指摘した。

中村公一先生(駒澤大学)の司会のもと、特別講演には大久保伸一氏(TOPPANホールディングス株式会社副社長執行役員CHRO)が登壇された。テーマは「パーパス実現のための“人間尊重経営”～働きがいを求めて～」であった。10月に凸版から社名変更し、パーパスを新たに創造したばかりであるが、同社の長い歴史と継続したイノベーションや社員のウェル・ビーイングを求める数々の施策は深い感銘を与えた。なお飯田橋にある同社の印刷博物館へのご訪問を会員



特別講演される TOPPAN ホールディングス(株) 副社長・大久保伸一氏

の皆様にもお薦めしたい。印刷技術が人類文化の根底にあることを学ぶ最良の場であり、企業ミュージアムとしてトップ級の存在感がある。

懇親会は種月館1階を会場に、小野瀬拓先生の司会のもと、駒澤大学学長各務洋子の挨拶、来賓の韓国経営教育学会会長の金京煥先生（成均館大学グローバル・アントレナーシップ大学院・スタートアップ基金代表）の挨拶などがあった。同大学教授・スタートアップ基金の李政宇先生も参加された。大会参加者が無料で参加できる懇親会は、交歓の場として大変盛り上がり、研究者間のリアルな交流ネットワーキングが広がったことは言うまでもない。

3日目(日)統一論題セッション3ではサブテーマ「経営理念研究におけるパーパス」のもと、柴田仁夫先生（岐阜大学）が中小企業とパーパスについて、中小企業白書から説き起こし、経営理念のもとに経営戦略がある図式を解説された。つづいて、田中雅子先生（帝塚山大学）から、「ブームで終わる？パーパス経営」のテーマで、これまで、経営理念浸透の通時的研究や階層説など長く日本の経営理念研究を領導された



統一論題セッション3（10月8日登壇者）

立場から、感銘深き示唆を開陳された。深い精神性をもった日本の(KEIEI-)RINENが世界に発信されるべきという提言に私たちは大変勇気づけられた。まさに今回の学会開催のハイライトとなる御発表であった。小林右季氏（株式会社二葉企画）からは、市川先生の指導のもと同社のパーパス策定の経緯と若手を加えた社風一新の事例が紹介された。パネルディスカッションでは、渡辺伊津子先生（駒澤大学）が司会のもと、東俊之先生（長野県立大学）が代表質問者となり、的確な把握と基本的概念の質問がなされた。特に二葉企画の事例がさらに探究されるなど、経営理念浸透の優れた実践例の在り方に注目が集まった。

同日午後の自由論題セッションは、4報告と研究部会セッションがあった。特に後者では、マネジメント教育研究部会・組織委員会合同セッション「経営教育の未来—AI時代に求められるマネジメントと経営教育—」があった。前回の研究大会を主催された田中克昌先生（文教大学）が司会・概念解説のもと、長塚隆行氏（NEC政策渉外部担当部長）が「VUCA時代の企業経営におけるデジタル活用と“生成AI”」のキーノートスピーチを行った。長塚氏は、2022年1月に公表された経済同友会の『第18回企業白書』「人間及び人間社会の本質的欲求と企業経営～非連続な環境変化と継続的価値創造～」を編集された方であり、日本経団連にも関わっている。政財界が取り組む生成AIと今後の企業社会の在り方、同社の取り組みを披露された。田中克昌先生（文教大学）のコーディネートののもと、パネラーには、長塚氏含め、亀川雅人先生（文京学院大学）、平井直樹先生（立教大学）が登壇した。この最先端のイノベーションがもたらす功罪について広範な議論が展開された。松村洋平会長（立正大学）が質問されたように経営教育上の課題はこれからだということが認識共有された。

本大会の開催にあたっては、学会長の松村洋平先生（立正大学）、組織委員長長の井上善海先生（法政大学）、総務委員長長の當間政義先生（和光大学）などから多大なるご支援を賜ったことに改めて感謝申し上げる。事前に何度もZOOM会議があった。

予稿集などの印刷は二葉企画様に、大会運営は小野瀬拓ゼミナールに大変お世話になりました。ありがとうございます。

◇◇マネジメント教育研究部会・組織委員会合同セッション◇◇ 「経営教育の未来—AI時代に求められるマネジメントと経営教育 (日本マネジメント学会 第88回全国研究大会)」開催報告

マネジメント教育研究部会長 篠原 淳 (埼玉学園大学)

第87回全国研究大会の総会において、前学会長である文京学院大学の亀川雅人氏から、生成AIに対する学会としての見解の整理が必要ではないか、との提言があった。

マネジメント教育研究部会では、この提言を受けて、企業のマネジメント及び経営教育と生成AIの関係性について討議するため、第88回全国研究大会において組織委員会との合同セッションを開催した。

合同セッションは、まず、日本電気株式会社 (NEC) 政策渉外部の長塚隆行氏に、キーノートスピーチ「VUCA時代の企業経営におけるデジタル活用と“生成AI”」を行っていただいた。長塚氏からは、経済同友会で「企業白書 2022」の編纂にかかわった経験から、不確実性が高く変化の速い時代における企業経営への提言とともに、現在、注目されている生成AIに関し、NECとして日本語かつ業種に特化して展開する戦略について、具体的に紹介していただいた。



キーノートスピーチを受けて、亀川雅人氏、立教大学の平井直樹氏が登壇者に加わり、文教大学の田中克昌氏の司会のもと、第88回全国研究大会の統一論題や合同セッションのテーマを踏まえ、企業経営と生成AIについての議論が行われた。

議論では、生成AIの進化の経緯、つまり、AI単独でヘイトスピーチを放った“旧”生成AIから、人間(ラベラー)のランク評価をコード化し、人間の好む文章やプログラムコードを作成できるようになった“現在の”生成AI(ChatGPT等)へと進化した経緯を踏まえ、企業の経営活動への生成AIの活用の在り方について、将来の可能性を含めメリット・デメリットの両面から活発な議論が行われた。

参加者との質疑応答では、大学教育や研究に関する影響に関しての質問があった。これに対し、亀川氏が、現在の生成AIが人間と同じく与える情報で矯正され、洗脳教育が可能である点に注意が必要であること、また、生成AIが課題抽出や仮説の展開が行えるようになると、教育者に限らず人間の存在意義そのものが問われる時代がやってくる可能性について言及され、大変興味深い議論となった。

マネジメント教育研究部会では、今後も最新のトレンド等を踏まえながら、AI時代に求められるマネジメントと経営教育について議論し、提言を行っていきたい。

◇◇第 1 回経営理念研究部会の報告◇◇

経営理念研究部会長 村山 元理（駒澤大学）

8月1日(火)にオンラインを併用してリアル開催を実施し、10名ほどの参加者があった。今回の部会では、日本の経営倫理の研究と実践的普及のトップランナーである高巖先生（明治大学経営学部特任教授）から「日本航空の破綻と再生に見る経営哲学の意義」についてご講演をいただいた。高先生は優秀な弟子たちとの共著『日本航空の破綻と再生』（ミネルヴァ書房、2019年）を刊行され、稲盛和夫の経営哲学がJALの再生にいかにかに経時的に浸透したのかを、モノ、カネ、ヒトの立場から多角的に研究された。日本のフラッグエアであるJALの内部資料を生かし、緻密な研究的枠組みのもと、恐らく組織の存続に経営哲学（稲盛は経営理念の代わりに経営哲学を使った）がいかにかに影響するかを理解するうえで欠かすことのできない記念碑的な学術書である。

緻密な研究の中にも、以下のような稲盛会長のエピソードもあり、ナラティブのもつパワーも感じる御発表でもあった。

JAL会長に着任してから2年経過した頃、1通の便りが秘書部に届いた。「エコノミー席だったのですが、目的地に着き、降りる際、隣に座っていたかなり年配の初老の方がわざわざ上の棚から荷物を取ってくれました」とある。この人物が稲盛会長であった。このことは稲盛の経営哲学を考えるうえで重要な手がかりであろう。

最後に今後の研究課題として以下の4点を示された。

- 1) 経営資源のあり方が意思決定パターンに与える影響は「包括的・論理的な説明の枠組み」で除外した逆の流れをどう捉えるか。例えば、コロナ禍は意思決定パターンにどのような影響を与えたか。
- 2) 時間の経過とともに、また順境の中で、意思決定パターンは悪化していくのか（例えば、人は易きに流れる。経営理念とエントロピー増大の法則。危機がなければ、意思決定パターンは改善されないのか）。
- 3) 経営層の基本姿勢（意思決定パターン）の悪化は防げるか。株式市場は中長期志向を評価できるか。経営層は、短期志向、責任転嫁、対話軽視に陥らないか。ガバナンスはどうあるべきか。
- 4) JALの経営戦略と経営理念の関係はどのようなものか（公募増資と自己資本比率、雇用維持と固定費比率、コードシェア提携先の拡大など）。

ご用意された105枚のスライドの全貌の一端しか本稿ではご紹介できないが、是非多くの会員が同書から学ばれることを期待する。



高巖先生（前例右から2人目）と参加者

◆◆会員の最新刊著書を紹介◆◆

櫻井敬三・高橋文行・藤井享・真崎貴・山田善教・渡邊恵 著
『分析経営から創造的経営へ』脱・失われた30年への処方箋

株文眞堂 3,200円＋税

これからの中小製造企業には『基本理念を維持しながらイノベーションを連続的に生み出し続ける仕組みづくりが必要』とし、そのためには①必要なモノを必要なだけ作る、②社会に目配りして作る、③真のパートナーシップで作る、④真の顧客価値を実現するモノを作る（高付加価値化）ことが出発点となる。

羽田明浩 編著

『MBAのナースたち ―9つの事例にみるMBA取得者のその後―』

株文眞堂 2,700円＋税

MBAを取得したナース達の進学動機や課題研究で取り組んだ業務改善などの研究成果を紹介した本である。看護師の仕事内容や医療機関経営に興味のある研究者の方、リスクリングを考える医療職や医療経営を学ぶ方にお読みいただければ幸いである。

◆◆会員最新刊著書紹介欄への申し込み方法◆◆

会員最新刊著書紹介欄では、会員著書の情報を掲載しております。本欄に書誌情報および内容紹介文の掲載を希望なさる方は、以下の手順に従ってお申し込みください。書誌情報のみの掲載も受け付けております。会員著書紹介欄に掲載できるのは、会員単著、会員同士の共著、共著者として会員が参加している著書、のいずれかに該当する書籍です。

掲載をご希望の場合には、会報発行月前月20日までに、会報委員長および事務局長宛に書誌情報、紹介文（100字程度）の原稿をお送りください。

会報委員長：n-hosoga@sophia.ac.jp

事務局長：jimukyoku@nippon-academy-of-management.com

紹介文掲載の場合は、完成原稿でお送りください。編集上の都合により、校正の必要が生じる場合は、会報委員会から連絡を差し上げることがありますので、よろしくご対応ください。

学会事務局より**◇◇会費未納の方は至急お支払いをお願いします◇◇**

前回の会報でもお願いしましたが、令和5年度会費の未納の方は、次のいずれかの方法で至急お支払いをお願い申し上げます。会費は当学会の唯一の財源であることをご理解のうえ切にご協力をお願いします。

1. ゆうちょ銀行への振込の場合：口座番号：00150-7-535064
2. みずほ銀行への振込の場合：飯田橋支店 普通預金口座 1388418
3. 他の金融機関からゆうちょ銀行への振込の場合：〇一九店 当座 0535064。

◇◇会員情報の変更連絡のお願いについて◇◇

毎年春は転勤やそれに伴う転居等の時期に当たっております。勤務先・自宅住所・電話番号・メールアドレス等の変更がある場合は、メールやゆうちょ銀行の払込取扱票の通信欄への記載により速やかに事務局までご連絡をお願い致します。

会員情報の変更連絡をいただけないために、機関誌、会報、請求書等が事務局に返却されるケースが多発しておりますので、これらを会員の皆様にタイムリーにお届け出来るように、是非ともご協力をお願い申し上げます

メールマガジン・学会ウェブサイトをご利用ください

大会、部会の開催や募集、その他ニュースなどタイムリーにお届けするにはメールマガジンが最適です。ぜひメールアドレスの登録をお願いします。

また学会ウェブサイト (<http://nippon-management.jp/>) では、学会の最新の情報をアップしております。ブックマークへのご登録をお願いします。

◇◇学会のDX化推進と会報に向けた想い◇◇

会長 松村 洋平

おかげさまで日本マネジメント学会会報は333号の発行となりました。会員の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

コロナ禍によりオンライン開催を余儀なくされていた全国研究大会も第86回全国研究大会(朝日大学)から対面開催に戻り、会員の皆様が直接交流するお姿を拝見できるようになりました。コロナ禍は、少なからず世の中にマイナスの影響を及ぼしましたが、しかし、同時に新しい生活様式をもたらしたのも事実であります。その代表がDX(デジタルトランスフォーメーション)化ではないでしょうか。例えば、地方部会にあってテーマに関心がある会員が広く全国から集い、活発な議論が繰り広げられる場面もありました。将来的には、DX化によって新入会員支援プログラムのような小規模の研究会・勉強会を通じた会員交流の機会がさらに増えるでしょうし、会費納入手続きなど事務処理も省力化も可能になるかもしれません。

会報も例外ではありません。DX化推進のもとで会報は、これまで以上に的確かつ迅速な情報発信・共有による学会活動の円滑化・高度化の一助を担ってくれるものと確信しております。動画や画像、音声を駆使した、よりタイムリーかつダイレクトで、インタラクティブな会報がDX化の向こうに見えてまいります。そのような想いから、第87回全国研究大会会員総会にてお話し致しましたように、次号334号より郵送スタイルを改めホームページ上の掲載ならびにメールマガジンでの配信とさせていただきます。

今後も新しいスタイルのもと会報を継続して刊行し、学会の最新情報や会員諸氏の活動情報をお届けしていく所存です。引き続き、会員の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

編集後記

皆様のご協力により会報333号をお届けできますこと、心より感謝いたします。

上記会長挨拶の通り、会報は次号より、ホームページおよびメールマガジンでの配信となります。88回全国大会にもありましたように、AI時代の到来、DX化推進などの時代の流れの中で、会報もまた、会員皆様のコミュニケーションツールとしての進化を模索してまいります。進化を目指しつつも、内容の充実と会員交流の深化を目指す気持ちは変わりません。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(会報委員会 細萱 伸子(委員長)、本号担当: 田中克昌(副委員長)、平井直樹、東史恵)

発行 **日本マネジメント学会**
(旧称: 日本経営教育学会)

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-5
九段会館テラス2F
株式会社山城経営研究所内
TEL 050-1790-3506

E-mail: jimukyoku@nippon-academy-of-management.com
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 ㈱ドットケイズ 〒03-5206-1626
E-mail: win@good-ks.co.jp